

| | | | |
|---|--|---------|-------|
| 年度 2008 学期 後期 | 曜日・校時 火1/火2/金1 | 必修選択 必修 | 単位数 1 |
| 授業科目/(英語名) | 中国語Ⅱ Chinese II | | |
| 対象年次 1年次 | 講義形態 演習 | 教室 | |
| 対象学生(クラス等) 火1:Lc・d/ 火2:E7 金1:T六 | 科目分類 外国語科目(中国語) | | |
| 担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:楊 曉安 / Eメールアドレス:xiaolan@nagasaki-u.ac.jp /研究室:共同教育棟3階 / TEL :095-819-2166 /オフィスアワー:月・火・金の5校時 | | | |
| 担当教員(オムニバス科目等) | | | |
| 授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 発音や文法事項など中国語の基礎を学ぶ。「きれいで、使える」中国語の習得をめざす。中国語の基本は発音、大きな声で積極的に練習すること。発音練習・会話練習・短文の暗唱などを通して、基礎をしっかりと鍛えていく。 授業方法: 1. 内容は基本的にテキストにそって進める。2. 会話能力をより確実に身につけるために、原則として朗読と暗唱を活用することに重点をおく。これを基礎に、テキストの内容に関連する場面を想定し、実践会話の練習をさせる。3. 各課の内容と関連ある文化的背景など説明し、学生からの質問を随時受ける。 授業到達目標: 1. 中国語の音を正確に聞き分け、正しく発音できるようにする。2. 中国語の音声表記(中国語ローマ字表記)をマスターする。3. 基本構文を学習し、日常的な会話表現を身につける。 | | | |
| 授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 概要:発音練習を繰り返し行い、例文を補充して文法事項を説明し、本文内容の確認のように授業が進む。毎回の授業では口と耳を絶えず動かすようにする。具体的に言うと、まず聞き取り練習をして、達成感を味わってもらう。そして復習するために、プリントを出して、練習問題を通じて学んだ文法を固めてもらう。 第1回 第1課『お久しぶりです』 文法:副詞の「好」/時態助詞「着」 第2回 第2課『どうして休むのですか』 文法:「听说」と「听~说」/動詞の重ね型 第3回 第3課『毎日何コマありますか』 文法:「有时」/「从~到~」/程度副詞 第4回 第1課から第3課までのまとめ 小テスト 第5回 第4課『そばに何がありますか』 文法:方向名詞/前置詞「离」/前置詞「往」 第6回 第5課『まだ気分がよくなりましたか』 文法:比較の表現/「再」と「又」 第7回 第6課『彼にビールを買いに行かせる』 文法:使役の表現/前置詞「给」 第8回 第7課『ある人が訪ねて来る』 文法:兼語文/受け身 第9回 第4課から第7課までのまとめ 小テスト 第10回 第8課『多くのところが分からない』 文法:結果補語/選択疑問文 第11回 第9課『聞いて分かりますか』 文法:可能補語/動詞句が目的語の文 第12回 第10課『中国語を話すのが流暢になった』 文法:様態補語/文が目的語 第13回 第11課『あなたに良い知らせを教えます』 文法:二重目的語/「把」構文 第14回 第8課から第11課までのまとめ 小テスト 第15回 総合復習(試験含む) | | | |
| キーワード | | | |
| 教科書・教材・参考書 | テキスト:黒坂満輝・村上公一・楊曉安『コミュニケーション中国語Ⅱ』(同学社) 辞書:上野恵司『標準中国語辞典』(白帝社) | | |
| 成績評価の方法・基準等 | 期末テスト(70%)、小テスト・課題(20%)、授業への積極的な参加(10%)などを総合して評価する。 | | |
| 受講要件(履修条件) | 単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。 | | |
| 本科目の位置づけ/学習・教育目標 | | | |
| 備考(準備学習等) | | | |